

高知県協働の森づくり事業における 生物多様性保全の取り組み

活動場所

高知県安芸市の「三菱商事 千年の森
(通称：彌太郎の森)」の内、
別役地区の社有林及び市有林



活動目的

生物多様性の保全

活動内容

三菱商事は、三菱グループの創業者・岩崎彌太郎の生誕地である高知県安芸市において、2009年より安芸市、高知東部森林組合と共に高知県が推進する協働の森づくり事業に取り組んでいる。地域の環境保全に貢献することを目的に、同市別役地区の山林143haを社有林として保有するほか、市有林及び森林組合管理林を含む263haを「三菱商事 千年の森 (通称：彌太郎の森)」と名付け、森林整備や三菱商事社員によるボランティア活動等の交流事業を実施している。

「三菱商事 千年の森」では水源涵養等の森林の公益機能増進に加えて、2020年3月には四国森林管理局及び安芸市、高知東部森林組合と「四国山地緑の回廊」の連携に係る協定を締結し、四国山地緑の回廊(剣山地区)に隣接する別役地区の212ha(社有林143ha及び市有林69ha)において四国森林管理局が定める※「四国山地緑の回廊」設定方針に準じた管理を導入することで合意し、生物多様性の保全に勤めている。

※四国の国有林では保護林という制度で貴重な動植物や森林を保護してきたが、こうした保護林と保護林をつなぐ国有林を「緑の回廊」に設定し、動植物が広く行き来できるようにすることにより、生物多様性を保全する働きを期待するもの。

PRしたいポイント

- ◎野生生物の移動等にとって良好な状態になるよう森林のタイプに応じて維持・整備を適切に実施する。
- ◎健全な森林生態系の維持・回復及び生物多様性の保全に配慮し、人工林については大面積の皆伐は行わない。以上「四国山地緑の回廊」の連携に係る協定より抜粋。

活動効果、今後の展開 等

- 三菱商事は高知東部森林組合より少なくとも年一回管理状況の報告を受け、人工林の天然林化が徐々に進展していることを確認している。
- 人工林は将来的に針広混交林や天然林への誘導を図る。

三菱商事株式会社

サステナビリティ・CSR部

<https://mitsubishicorp.disclosure.site/ja/themes/115#934>(サステナビリティ・ウェブサイト/生物多様性/取組)